学友会（運動部、文化部）に対する態度について

福島県立大学 水野義之, 〇山崎秋則

Conant は大学は職業教育, 知識の進歩及び指導的
市民の一般教育にとざされかながら高度の自然と独立を
保持する学徒の共同体であるとしている。またアメリカ
教育指針の報告書には、大学の目的として職業教
育 professional education advancement of
knowledge 一般教育 general education の三者が被
われているが、これからそのmerit 新制大学の職能っ
ていると解釈できるであろう。この中とこれは従来の
大学がその使命としてその本質的なものとして重要視
していたものであり、新制度で無視された後では
てもその意義は从来通りうけつがれ、たえず努力と研究
が行われかつ高い業績があがっているといわれる。

従て新制大学の役も顕著な特徴は一般教育にあると
考えてよいであろう。一般教育の目的とする所は養養あ
る人間形成にあり、新制大学が発足して余年を経た今
日にはその諦めを努力と努力を払ってきたといえず、
その成果も又るべきものがないといわれ、国立大学協
会が特別委員会を作って再検討を進むしているのも
当然であろう。

次に人間形成をめざす新制大学の特徴としていろいろ
の学生活動があげられる。これは新制大学が正課以外の
分野に求めた人間形成への道であるが、一般教育が制度
的に確立されているのに比べてそれは各大学の自主性に
期待するような立場にあるといえよう。従て学生・学
生のこの活動に対する理解と熟察は一般教育以上に不足
し実績も又見られない。現状では、学生活動の
主要な部分を占める学友会活動は Klopf の「Students
Personnel Service の一環として」の学生活動に
包含されるものである。すかわフリに学友会活動は新
制大学の理念に合っているものであり高く評価されなければならない。そこでわれわれが本学部生がこの活動に対する
好意的・中立的・非好意的何れの意見を示すかの現実
を捉え、その活動のよりよく発展のための示唆を求めよ
うとした。

研究方法 学友会活動に対する態度の検査は Likert
の接続性を採用し、福島県立大学生に昭和35年5月～6
月に実施した。問題は運動部・文化部に対する50の意
見（肯定・否定）を無作為に並べ、35院の反応く
テーリーを作製し約400名の学生に実施した。この中か
に無作為に抽出された200名の結果について検査を採
点した。

30問ごとに検討においても選択の一運動部
では258、文化部では272が該分析の対象となった。テ
ストの内的一致をたかなために間分析 good-poor
analysis を行なった結果の有意でない項目。運動部11項
目、文化部7項目を一応削除し、削除処理の信頼係数を
比較した結果は何れも削除後が大であったため前記削除
項目の削除を決定した。

結果の考察 個々の回答について検査結果を総合的に従
めると、運動部に対して75.9、文化部に対して70.8の
数値を示し運動部に対する方が文化部に対するより好意
的であった。なおこの点は100点に換算したものであ
る。次に学生を運動部・文化部・無所属の三つのグループ
にわけ、それぞれのグループが運動部、文化部に対し
てどのような態度をもっているかを明らかにすると、運
動部に対する態度はやや運動部が最も好意的であり
る。以下文化部・無所属学生の順である。文化部に対
しては文化部・運動部・無所属学生の順となり無所
属学生は運動の部で最も学生会活動に対して最も非好
意的であった。各学部別にその態度をみると医学部を除
いては大体平均値を示していた。

以上のことから直ちに判断した結果を導き出すこと
は困難であり又危険であると思われるが、学生助教 S.P.S.
の中で人間的な地歩を占める学友会活動に対する学生の深
い認識が持たず、中には無関心な態度を示すものもいる
ことから学友会活動の意義を深く認識の立場にたって考
察した場合、従に学生の自治という名目のみに捉われ
ることなく、学校当局から今後よりさらに積極的に助言
指導を急がたい。出来上る限り学友会活動に多くの学生
を参加させるように留意すると同時に、又の事を容易な
らしめるための一手段として経済援助等を与えるとい
ちに先例が異なったとされ、そのようなことが活動に
參加することのない学生に、学友会活動をより正
しく理解させ学校共同体としての意味を発揮させる所以
となるであろう。